

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針  
 政策整理番号 23 生涯にわたって学び楽しめる環境の充実

政策体系		県民満足度		評価原素								
政策番号	政策名	満足度(政策)		政策評価シート(A)								
		重視度	満足度	政策評価シート(A)	政策評価シート(A)の内容							
					政策評価シート(B)	政策評価シート(B)の内容						
実施番号	施策名	政策評価指標名	指標値達成度	満足度(施策)		優先度(順位)	優先度(%)	施策の必要性	政策評価シート(C)	施策・事業展開シート(C)の内容		
					3-7-2					生涯にわたって学び楽しめる環境の充実		
1	多様なニーズに対応した学習機会の提供	みやぎ県民大学受講者数(累計)	A	2位		26.4%	大	政策評価シート(B)	おおむね適切		【県間・事業群設定:おおむね適切】本施策について、現在県では市町村のほか民間団体をも想定に入れ各地域において生涯学習の振興に取り組んでいる。国、市町村、民間団体と連携を図りながら生涯学習を展開するためには役割分担等の体系構築が必要と考える。事業は高等学校をはじめとする教育施設等と連携しての講座開設など、いずれも施策目的を実現するために必要な事業である。 【事業群の有効性:おおむね有効】施策満足度は50 60 60と推移しており事業群は有効と判定できる。また、政策評価指標「みやぎ県民大学受講者数(累計)」は目標を達成しており有効である。一方、政策評価指標「公立図書館における図書資料貸出数(県民一人当たり)」の方は目標達成に0.1冊及ばない状況にはあるが、三陸南地震の影響により閉館日数が減少したことを考慮すれば施策の効果は認められる。県内公立図書館における個人の図書資料貸出総数は8,360千冊となり、前年より73千冊増加している状況であることから事業群の有効性が認められる。 【事業群の効率性:おおむね効率的】施策満足度、政策評価指標の達成状況からはおおむね効率的と言える。なお、「みやぎ県民大学推進事業」と「市町村支援事業費」いずれも事業成果が伸びており、事業費に対する業績の割合も増加していることから効率的に事業を実施していると判定できる。 【総括】上記3点を総合的に検証した結果「おおむね適切」と判断する。	
		公立図書館における図書資料貸出数(県民一人当たり)	B					政策評価シート(C)	維持		【評価結果から抽出される課題と対応策】 政策評価指数(みやぎ県民大学受講者数及び公立図書館における図書資料貸出数)の目標値を達成するため、引き続き重点的に実施する必要がある。 政策評価指数の順調な推移や高い施策満足度から判断して、事業群設定については妥当であり、事業そのものの廃止や見直しは考えていない。 【施策・事業の方向性】 県民の重視度や優先度は依然として高く、より多様なニーズに対応した、より広域的な講座の実施に向けて、本施策の方向性は維持していく必要がある。 厳しい財政下にある市町村にとって、新たな図書館の整備については難しい状況にあり、県が市町村図書館設置に向けた気運の醸成や支援を行なっていくという方向性は維持する必要がある。	
2	地域の主体的な生涯学習を支援する人材の育成			3位		20.8%	大					
3	行政、大学及びNPO等生涯学習に関わる様々な機関・団体のネットワーク化			5位		6.2%	中					
4	生涯学習を支援する関連施設の整備・充実			1位		31.1%	中					
5	生涯学習に関する様々な情報提供システムの充実			4位	14.2%	中						

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針  
 政策整理番号 23 生涯にわたって学び楽しめる環境の充実

行政評価委員会政策評価部会の意見	県の対応方針	評価結果
政策評価	政策評価	政策評価
施策評価	施策評価	施策評価
-		
-		
-		
-		
-		
-		